

館蔵資料紹介

吉村孝敬筆 紙本芙蓉仔犬図（御厨加藤家旧蔵）本地八八・五糎×三〇糎



蘭陵孝敬写

本図は吉村孝敬が、芙蓉を背景とした二匹の仔犬を広い空間の中に、適切な構図配置のもとに図をまとめ上げている。しかも真向きの仔犬は精緻な写実表現で、後向きの白い仔犬は輪郭を線描だけにとどめて毛を描写せずに、真向きの仔犬に相對せしめているのは面白い。画面向って左方下に「蘭陵孝敬写」と落款があり、白文印一顆を押す。

吉村孝敬は西本願寺画師吉村蘭州の子で、字は無違、孝敬と称し、蘭陵はその号である。円山応挙に学び、花鳥をよくした。天保七年（一八三六）年六十八で歿している。応挙の作にもこの図に似た仔犬図が残され、円山派の作風をよく伝えた作である。

（翻刻解題 宇野茂樹）